

## 2011年度 ATJ体験記

氏名：M . G.

卒業年月：2010年 3月 卒業学部・学科：現代社会学部・社会システム学科

派遣先学校名：Appin Park Primary School

ATJの期間：2011年 4月18日～2012年 3月31日（更新なし）

### I. ATJレポート

#### ① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語の学習としては、英会話スクールにて週1回1時間の個人レッスンを受けて、主に会話の練習をしていました。家では、映画を英語音声+英語字幕で観たり、英語のリスニングのCDを聞いたりして、英語を使う環境に馴れる様にしました。あと、自分が教える時に役に立つ様に、教室で使う英語（クラスルームイングリッシュ）も頭に入れておきました。日本語に関しては、1年間日本語教師養成講座に通って日本語教師の資格を取得しました。日本文化に関する学習としては、NHKのトラッドジャパンを観て、日本文化の学習+英語で日本文化の説明をする練習をしました。この番組を私はずっと録画していたので、実際にオーストラリアに行って授業をする時にも役に立ちました。あとは、英語で書かれた日本・日本文化に関する本、オーストラリアに関する本・オーストラリア英語に関する本も読みました。

#### ② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

ビザの手続きはJTBさんに全てやってもらいました。自分でも出来ると思いましたが、ATJとしての派遣が決定したのが1月末ぐらいで、出発まで2ヶ月弱しかなく、代行業者に頼んだ方が確実に速いし、時間を有効に使えると思ったので。

#### ③ ATJとして経験した具体的業務

私が派遣された小学校では、Prep～Grade6まで約350人、14クラスが日本語の授業を受け

ていました。月曜日と火曜日だけパートタイムで働いている日本語の先生がいたので、月曜日と火曜日は全14クラス（Prep: 2クラス×30分・Grades1/2: 5クラス×30分・Grades3/4: 4クラス×30分・Grades5/6: 3クラス×1時間）で日本語の先生のアシスタントとして働きました。アシスタントとしては、主に授業の準備を手伝ったり、授業中は発音を担当したり、教室を見て回って日本語が苦手な子供の手伝いをしたり、アクティビティーをする時は子供と一緒に参加したりして、子供たちと積極的にコミュニケーション（日本語と英語両方）を取るようになりました。

日本語の先生がいない水曜日と金曜日は、Grades3/4・5/6: 7クラス×30分の日本語の授業を自分で担当しました。主に月曜日と火曜日の日本語の先生の授業の続きを私の授業で完成させるという感じでした。先生の続きが何もない時は、先生と相談して授業内容を決めて、自分で考えたこと・やりたいことをやっていました。以下に私が自分の授業でしたことの一部をのせておきます。

- ・折り紙で動物を作る+動物・色の名前+形容詞（猫です。黒いです。大きいです。かわいいです。）
- ・お箸の持ち方の練習+箸のマナー+食べ物の名前+箸レース
- ・あいさつ　・身体の名前（頭・肩・膝♪）　・平仮名ぬり絵　・平仮名ビンゴ

#### ④ ATJ以外の活動

ATJ以外の活動としては、私は毎週木曜日が日本語の授業がなくてオフだったので、木曜日の午前中に市の文化センターでやっている英語の授業に参加していました。私以外には中国、フランス、インドネシア、トルコ等から来た人たちが通っていました。

学校に行っている日で日本語の授業がない時間、空き時間は、自分の授業のプランニングをしたり、他のクラスの見学に行ったり、忙しい先生たちの手伝い（プリントのコピー、ラミネート、教室の飾り付け等）をしていました。授業の見学は、日本語の授業とは全く関係がなくても時間があれば是非やることをおすすめします。オーストラリアの教育は日本とは全く違うし、普段先生たちがどうやって教えているか（授業の進め方）、どうやって子供と接しているか（注意の仕方、褒め方など）、勉強になることが沢山あると思います。日本語の教室以外での子供たちのことを知るにも良いと思います。他にも、空き時間にGrades1/2のクラスで子供たちのリーディングの手伝いもしていました。休み時間には日本語の教室に来た子供たちに折り紙を教えたり、日本のぬり絵と一緒にやったりもしました。あとは、各学年のキャンプに付いて行ったり、遠足に付いて行ったり、学校のBBQに参加

したりと、学校行事にはたくさん参加しました。

#### ⑤ ホームステイ

私は1年間で8回引っ越しをして、7家族にお世話になりました。(5月にお世話になった家族と仲良くなって、年明けの2月3月にまたホームステイさせてもらったので。) だいたい4週間～6週間に1回引っ越しをしていたので、荷造りは大変でしたし、その都度生活が変わるのも大変でしたが、オーストラリアにいるのも一年という限られた時間なので、私はこんなに多くのファミリーにお世話になれたことをとっても嬉しく思っています。

ホストファミリーが私たちを受け入れてくれなければ ATJ は成り立たないので、ホストファミリーには常に感謝の気持ちを持って接してください。私たちが良い印象を持ってもらえると、日本に対しても良い印象を持ってもらえるかもしれないし、また来年も ATJ を受け入れたいと思ってくれるかもしれません。こうやって次に繋げて行くことが出来れば素敵だと思います。せっかく私たちをホストしてくれるのだから、一緒にいる時間を大切に、楽しい思い出を作って下さい。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

オーストラリアは日本と季節が逆だし、気候も全然違います。また食生活も日本とは全然違うので、ATJの1年間、私はよく体調を崩しました。結果2回病院に行くことになったので、保険には入っておいてよかったと思いました。また、英語を話す、学校で教える等、馴れない環境の中で身体も疲れます。なので、日本にいる時に自分がいつも使っている薬は必ず持って行った方が良いでしょう。あと、夏の暑さと紫外線は強烈なので、日焼け止め、帽子、サングラスは必需品だと思います。

治安面に関しては、オーストラリアは日本と比べたらのどかだし、フレンドリーな人が多いのでついつい気が緩みがちですが、自分は外国にいるということを常に忘れず、馴れ馴れしく話しかけてくる人には付いて行かない、夜中に一人で歩かない等、日本でも当たり前につけていることを注意すれば大丈夫だと思います。私は道を歩いていて、「日本語を話せる様になりたいんだけど」とか「日本人の友達が欲しいんだけど」と話しかけられて、実は連絡先を聞くのが目的だったり、実は宗教の勧誘だったりということが何度かありました。

## ⑦ 長期休暇の過ごし方

Term2 と Term3 の終わりにそれぞれ 2 週間の休暇があったので、シドニーとケアンズに 10 日間ずつ行きました。Term4 の終わりはクリスマス休暇で 1 ヶ月ぐらい学校が休みになったので、クリスマスはホストファミリーと一緒に過ごして、1 月に 2 週間ぐらいタスマニアに行きました。残りはホストファミリーと一緒にキャンプに行ったり、親戚のお家に一緒に遊びに行ったり、メルボルンに行って全豪オープンテニスを観戦したりしました。

## II. ATJ の感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私は ATJ として過ごした学校での毎日が本当に楽しかったし、子供たちの元気な笑顔が今でも強く心に残っています。最後まで自分でやる授業の前は緊張しっぱなしでしたが、毎日学校に行って、子供たちと過ごすのが本当に楽しみでした。最初の頃は、学校ですれ違った時に私が「こんにちは」って言っても「Hello」としか言わなかった子供が、私が帰国する頃には「こんにちは、先生」とか、「おはようございます」とか、段々と日本語をたくさん話ようになってきたのが、私には本当に嬉しかったです。あとは、自分で考えた授業、作った物で、子供たちが楽しんでくれたり、授業でやった歌を休み時間に歌っていたり、授業中、私が、英語が上手く話せない時に「先生はこういうことが言いたいんだよね」と理解を示してくれたり、本当に嬉しいこと、心に残ることがたくさんありました。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

オーストラリア英語、特に話すスピードの速さと訛には馴れるまでは本当に苦勞しました。せっかく私に話しかけてくれているのに、子供たち・先生たち・ホストファミリーの英語が初めの頃は全くと言っていいほど聞き取れず、自分が言いたいことも上手く言えずに、話したいことは沢山あるのに言えない・・・という悔しい思いをしました。

あとは、何と言っても日本語を英語で教えるというのが大変でした。クラスでよく使う英語（指示をする・注意する・褒める等）は頭に入れておいた方が良くと思いました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリア人のコミュニケーションの取り方。オーストラリア人のコミュニケーションの取り方は、日本人とは全く違うと思いました。オーストラリア人は、日本人みたいに、言われなくてもやる・言わなくてもわかる・察する・気を使う・空気を読むという様なコミュニケーションの取り方をしません。なので、日本的な待ちの姿勢、受け身では一向に話が進まないというか、永遠と待ち続けるだけだと、オーストラリアに行つてすぐの頃に痛感しました。学校でもホストの家でも、自分はどう思っているのか、何がしたいのか、何に困っているのか、相手に何をしてほしいのか、何が出来て何が出来ないのか等、日本人同士なら一々言わないことでも、オーストラリアでは一々はっきり相手に言わないと伝わりません。日本人は考えて、考えて、考え抜いて、相手に迷惑を掛けない・失敗しない様にするのが得意だけど、オーストラリアでは私がよく言われたのは「Don't think. Do it.」ということでした。これが、私が一番驚いたというか、日本人とは違うなと思ったことです。

## Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは必需品だと思います。学校でも授業の準備や授業中に使うし、スカイプやメールで他の ATJ や日本にいる家族と連絡を取るのにもとても役に立ちました。ただ、家にいる時で、ホストファミリーのネットワークを借りてインターネットをする場合は、ダウンロードとか使いすぎに十分注意した方が良いでしょう。私のホストファミリーはWiFiを使っているお家が殆どでしたが、日本みたいに定額制で使い放題ではなく、毎月使える量が決まっていたり、課金制だったりすることもあるので、家での利用は最低限にするか、あらかじめホストファミリーにルールを聞いておく方がいいかと思います。

### ② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

私は ATJ に参加して本当によかったと思っています。オーストラリアに1年間暮らす、日本語を英語で教える、オーストラリアの小学校、LOTE、日本語教育・・・どれもこの ATJ

というプログラムに参加しなければ経験することのなかった、自分の人生で二度と経験できないような貴重な体験ばかりです。なにより、ATJの1年間、学校の350人の子供たちとの出会い、ホストファミリーとの出会い、本当にたくさんの人との出会いがあった素敵な1年でした。勿論、毎日楽しいことばかりではなかったし、アシスタントとして学校にいる意味を考えてしまったり、就職した友人たちと自分を比べてしまったり、色々思うこともありました。でも、オーストラリアという国・文化・教育制度・LOTE・そして日本語教育。このどれかに興味があるのなら、卒業後の1年という時間をATJとして過ごす価値は十分にあると思います。

ただ、私が思うことですが、他のATJで「英語を上達させたい」という理由だけでATJに参加する人がいました。もちろんそれも目的の一つとしてあると思いますが、あくまでATJは日本語教師のアシスタントなので、一年タダで留学するような気持ちで参加するのはどうかと思いました。

#### IV. 進路

##### ① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

現時点では未定ですが、日本語教師として海外で働きたいと思っています。

##### ② 将来の夢

日本語教師として海外で働く。

留学コーディネーター・カウンセラーとして、オーストラリアに行きたい日本人・日本に  
来たいオーストラリア人両方に関われるような仕事をする。

## 2011年度 ATJ体験記

氏名：Y . I.

卒業年月：2011年 3月 卒業学部・学科：学芸学部 国際教養学科

派遣先学校名：Belgrave South Primary School

ATJの期間：2011年 4月～ 2012年 3月（更新なし）

### I. ATJレポート

#### ① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

正直、合格発表が少し遅れてて、渡航まで2か月ほどしかなかったのが、Visa申請や medical examの申し込みなどで忙しく、あまり学習関係の準備は日本でできませんでした。強いて言うなら、国内旅行に行ったときに、ATJ受かった時のためにと思い撮っておいた日本の何気ない町の風景や、古い町、モダンな建物等、とにかく日本の写真を集めておきました。それから、折り紙や割り箸など、ちょっとしたprize的なものを100円均一で買い揃えておきました。

#### ② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

私はVisaの申請をすべて自分で行ったので結構大変だったです。もし、自分でされる方がいるなら、medical examの書類をなるべく早く確認して予約をできるだけ早くとってください。関西でおそらく数件の病院しかあつかってないはずですが、予約もすぐにいっぱいになり、もしそれが遅れるとVisaが期限内におかないので、書類も、所定の翻訳事務所にだして、すべて翻訳しなければならないのでとにかく書類関係は早めでされたほうがいいと思います。

#### ③ ATJとして経験した具体的業務

私にはメインの先生がいなかったので、一人で全校生徒約350人を教えていました。学年はprepからgrade 6です。1クラス約20人～30人です。カリキュラム・前のATJ

の方の Lesson plan を参考にしながら Lesson Plan を練りました。あと、Reading Writing のスキルの伸びが人より遅い生徒をマンツーマンで指導する Reading recovery にも参加しました。主な空き時間は、prep・grade1/2 のサポートに入りました。

#### ④ ATJ 以外の活動

Suburb で、自分の家から最寄りの駅に行くこともホストに頼らなければいけなかったのも、その他の活動は難しかったです。

#### ⑤ ホームステイ

もともと9か月契約で、ホストは7家庭ありました。短くて2週間、長くて2か月です。契約が1年間に伸びてから、また5個目の家に戻ったり、1個目の家に行ったりしていました。当初、引っ越しばかりで大丈夫か不安でしたが、全部のホストが本当にいい人で深い友達になりました。引っ越しするたびに友達が増えるようで良かったです。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面は、やはり学校で働くので自分の体調管理はとても大事です。年中、生徒の誰かが絶対病気なので。はやりの腸炎や、インフルエンザ、フィリピンコフなど、シーズンごとにくる病気もあるので、あまり生徒と近づきすぎないことも大切ですね。私も、普段はあまり病気になりませんが、今年はなにかと病気になりました。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

私は、ほとんど家族と過ごしていました。よく一緒に旅行に行ったり、キャンプも多いです。一度、ゴールドコーストに友達がいるので遊びに行きました。ほかの ATJ の子は、男の子2人で、4日間自転車をこぎ続けて海のきれいな観光地に行ったりしていました。ATJ 同士で内陸部に旅行に行った子もいました。

## Ⅱ. A T Jの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私が授業中に見せた映像や写真などをみて、ある生徒が家族にその話をし、日本に行きたいといったそうで、その生徒のお父さんが、私に今年日本に家族旅行に行くことを報告してくれたことです。小学生の子は、みんななんでも積極的に楽しんでくれて、常に質問の手もあがりっぱなしなので、そんな姿も印象的です。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

教員免許も、教師経験もないまま行ったので、ほんとにゼロからのスタートでした。行く前は小学生と触れ合う機会もなかったので、小学生がどんなもんかも分からず、いきなりオーストラリアの小学校に行き300人の生徒を持った時は、どうしようって感じでした。とにかく、授業見学にどんどん行き、できるだけ早く生徒の名前を覚え、ほかの先生の授業のコントロールの方法を観察していました。日本語でも30人の生徒を前にして、自分がメインで授業を行うことはとても緊張すると思います。とにかく、大人数の前でしゃべることになれることも最初は大変でした。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアの小学校ではとにかく、絵をかいたり、何かをつくったりと工作的で生徒が主体な授業がほとんどです。生物でも科学でも数学でも、とにかくゲームやアクティビティを通して学んでいました。だから、日本語の授業もとにかくゲームやアクティビティをたくさん取り入れました。アイデア勝負です。

## Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン、ホストのお土産、コマなどの日本の古いおもちゃです。

持って行ったらよかったなと感じたものは、キャラクターの塗り絵でした。

## ② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

何事にも積極的に参加して、とにかく早く学校のコミュニティに溶け込むことが大事だと思います。生徒との距離感は最初難しかったです。仲良くしたいと思い友達のような感じで接すると、今度は授業で生徒がコントロールできなくなります。ほかの先生を見てその辺は気を付けてください。小学校希望の人は、授業以外で多くの時間が準備が必要になりますが、生徒が楽しむためにも、労力を惜しまずどんどん楽しんで授業の準備してください。

## IV. 進路

### ① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

現在就職活動中です。英会話講師、通訳業務などの選考が進んでいます。

### ② 将来の夢

英語教師です。近い将来 TESOL の修士号取得を目指しています。

## 2011年度 ATJ体験記

氏名：A . K.

卒業年月：2011年 3月 卒業学部・学科：学芸学部 国際教養学科

派遣先学校名：Upwey High School

ATJの期間：2011年 4月19日 ~ 2012年 3月31日（更新なし）

### I. ATJレポート

#### ① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語は自分で文法、よく使う表現など勉強しました。日本文化についての資料はネットで収集し使えるものは食文化、日本の生活、教育制度ついてなど、ジャンルごとに分けてデータに保存していました。聞かれたらさっと答えられるようにしていました。CNNやABCで取り上げられた英語の記事を残しておくとう便利です。

#### ② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

決定してからすぐにビザの準備をしました。海外保険、戸籍謄本の翻訳、健康診断は時間がかかるので早めにおきました。自分でやったので分からないことが多かったですが、友だちや先輩にアドバイスをもらってなんとか出来ました。

#### ③ ATJとして経験した具体的業務

Year 11,12 のクラスは週二回で、自分で授業をしていました。文法は現地の日本語の先生が教えなければいけないのですが、それ以外のリーディング、リスニング、会話練習は私が教えることもありました。自分でやるので、もちろん授業の下準備、学習資料集め、ワークシートの作成もありました。

Year12 の生徒は週一で私との会話練習があります。日常会話、授業で分からなかったところのフォローにも心がけていました。よく使う表現や単語をリストにまとめたりもしました。

授業以外での仕事は、作文やテストの添削、成績のデータ入力、電話対応、イベント企画、日本文化についてのプレゼン、キャンプの引率など、いろいろ仕事させてもらいました。

#### ④ A T J 以外の活動

特にありません。

#### ⑤ ホームステイ

一年間同じホストファミリーにお世話になりました。本来は学期ごとにホームステイ先を変えなければいけないのですが、ホストが大好きだったので学校のコーディネーターに変わりたいことを伝えました。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面：メルボルンは天気・気温が変わりやすいところです。気温も朝と晩では全然違うので脱ぎ着出来る服装でないと体温調整が出来ませんでした。風邪に気をつけるくらいです。

治安面：比較的治安はいいですが、日本ほど良くはありません。夜の一人歩きや人通りの少ないところは気をつけて下さい。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

よくホストファミリーとキャンプ、友だちとサーフィンをしました。学校の体育科の野外教育の一環でキャンプや修学旅行にも同行しました。外で過ごすことの方が多かったです。

## II. A T J の感想

#### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

生徒に日本語を教える中で仲良くなれたことです。やんちゃな子もいましたがいい生徒に

恵まれて本当に良かったです。クラスで日本語を教えるのが初めてで、たくさん不安なことはありました。生徒から「あなたに教えてもらえてよかった」「勉強して日本に会いに行くよ」と言ってもらえたことがとても印象に残っています。

## ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

アシスタントは先生ほど拘束力がないため、授業中生徒に注意しても言うことを聞かないことがよくありました。低学年は必修で日本語を勉強しなければいけないので、やる気がない子が多かったです。「日本語を勉強するのって本当に嫌い」「何のために日本語をやるのか分からない」と言われたことはさすがにショックでした。先生としての経験が全くない状態で行ったので、毎日試行錯誤でした。

担当の先生がとても忙しかったので、レッスンプランが決まっていなかったことが多かったです。授業が始まる15分前に「今日はこれをするから準備よろしく！」と無茶なことを言われたことが何回かありました。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とてもフレンドリーなところです。ノリがよく、好き嫌いがはっきりしていて授業がうまくいったかそうでなかったか分かりやすいので私は好きです。先生と生徒の距離が近く友達感覚で何でも話してくるので、最初は少し戸惑ったことがありました。

## Ⅲ. ATJ参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンです。メルボルンはWifiスポットが多いので、街中ではネットが不自由なく使えます。Iphone, ipod touch など持っていくと便利です。ジブリのシール、スタンプや日本の文房具は喜ばれます。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

将来、ティーチングや語学関係の仕事をしたいのであれば行った方がいいです。ATJの経験が出来る人は限られています。就職とATJでかなり悩みましたが、ATJを選んで間違いなかったと思っています。興味があるなら、思い切って飛び込んでみるのはどうでしょうか？

#### IV. 進路

① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

就職活動中です。通信教育で勉強しながら働く予定です。

② 将来の夢

中学か高校で英語を教えることです。自分が担任をして、Upwey High Schoolと提携して自分の生徒を連れて行くのが夢です。

## 2011年度 ATJ体験記

氏名：Y. O.

卒業年月：2011年 3月 卒業学部・学科：学芸学部 英語英文学科（大学院）

派遣先学校名：Lilydale Primary School

ATJの期間：2011年 4月27日～2012年3月26日（更新なし）

### I. ATJレポート

#### ① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

私は小学校勤務と聞いており、前任のATJの方とメールのやりとりでどのような授業をしているのか、どの程度まで生徒が理解できているのかを聞いていました。そのレベルに合った準備や先生が必要としているものを買って持って行ったりしていました。「あいうえお」の本や（字が大きいもの）シール（ピカチュウやキティちゃん）を持っていくと喜ばれました。

#### ② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

参加決定から出発までの期間は2か月もなかったのですが、ビザ取得、保険加入や健康診断などに追われていました。病院は予約していてもすぐに順番がこなく、診断書がないとビザがもらえないのではやめにしておくべきだったと思いました。

#### ③ ATJとして経験した具体的業務

私は基本アシスタントとしての仕事をしていました。本を読んだり、先生が生徒とテストをしている間は、次テストしてもらうのを待っている生徒と1対1で確認のテストをしてあげたり、遅れていたり苦手に思っている生徒に教えてあげたりなどしていました。特に生徒数が多いクラスは2グループに分けるので、それぞれ私と先生で各グループを担っていました。Japan Festivalの計画や買い物、段取りなども任せられます。アイデアを出しては先生に相談し、形にしていきます。当日まではバタバタしますが、この日はATJにとっ

て大きな1日になります。ほかのATJの友達の学校にお邪魔して、授業を見学させてもらったり、手伝わせてもらいに行くこともできます。特にほとんどの学校はJapan Festivalをするので、よく手伝いに行っていました。

#### ④ ATJ以外の活動

(記載なし)

#### ⑤ ホームステイ

私はホームステイ先をこの1年間で2回しか引っ越ししませんでした。最初の3か月間は学校の日本語の先生かつLOTEの先生の家にお邪魔しました。次のタームからは、Prepの生徒の家に9か月お世話になりました。この家はとても居心地がよく本当に家族のように接してくれて、帰国してからも連絡をとりあっています。なんでも話し合える家族に出会えたことに感謝しています。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

治安は特に悪くはないですが、冬は夜6時半以降から急に外が暗くなります。私はシティから1時間半かかるところに住んでいたの、怖くて足早に帰っていました。夏は8時半ぐらいまでとても明るいので大丈夫です。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

それぞれのタームの休みには日本に帰らずに、オーストラリア内を旅行していました。飛行機で行ったり、電車で行ってバックパッカーみたいにリュック1つで友達とまわっていました。学校の休みになるとみんないっせいに休みを取るの、飛行機代など急に高くなるので、早めに計画をたてた方がいいと思います。ホームステイの家族と一緒に旅行もすごく楽しかったです。

## Ⅱ. A T Jの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友達や家族との旅行、家族との団らん、学校のスタッフとのモーニングティなど、小さいことがすべて楽しく思えました。当たり前だに思っていたことが、こんなに大切な時間となり幸せと思えたことに感謝しています。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

アジア人が多い国といっても地域によっては差別をうけることもあります。私も1度ありました。横断歩道でまっていると、スクールバスに乗って高校生とふと目があいました。すると1人が私に向かい中指をたて、隣の子は、両目を手で横にひっぱる仕草をしました。以前もこんなことをされた友達と話をしたことはあったのですが、いざされると「なんで？」という気持ちが高まり、涙がでました。これはほんの小さいことかもしれませんが、こういうことをいまだにってしまう人たちがいるということは悲しいことだなと思います。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

(記載なし)

## Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

花粉症がひどかったので、ポケットティッシュが役にたちました。向こうではあまり売っているのをみななかったので便利でした。冬は寒かったので、ホッカイロも便利でした。パソコンはあると便利でしたが、iphoneでも十分に活用できます。

### ② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

今、まだ参加しようか悩んでいる人も多いと思います。1年間本当にあつという間でした。日本で教師になることも素晴らしいことだと思いますが、この経験はここでしかできないと思います。かけがいのない生徒たちや、家族にあえたことを今でもうれしく思います。ホームシックやカルチャーショックにあうと思いますが、今ではそれも懐かしく思います、少しでも興味がある人はぜひ参加してください。

#### **IV. 進路**

##### ① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

現時点では、教員になるつもりです。資格は取得していたのでまずは講師からはじめていきたいと思います。

## 2011年度 ATJ体験記

氏名：A . N.

卒業年月：2010年 3月 卒業学部・学科：学芸学部 英語英文学科

派遣先学校名：Malvern Central School

ATJの期間：2011年 4月18日～2011年12月23日（更新なし）

### I. ATJレポート

#### ① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

小学校で働くことが決まっていたので、準備期間は折り紙や、あやとりのための毛糸、こいのぼりの小さい模型、たくさんのシールなど何でも小さい子供達に喜ばれそうな物をダイソー（100均）で集めました。

また実際に、その小学校の先生とメールでやりとりをしていたのでどういったものを持っていったら良いか聞いたところ、シールが子供は喜ぶと書いてあったので多めに持っていきました。

アシスタントといえど、自分がどういうポジションで何をするか全く読めなかったので、万一授業を任された時のためにネットや本屋さんで購入した日本語教師用の授業の進め方の本を見て、ノートにいくつかゲームや遊びを記して持って行きました。

英語は大学時代常日頃勉強していたので、これとって特になにかはしなかったです。

#### ② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

VISAは、同志社女子大学で教えて頂いた代理会社を通して色々手続きをしていただきました。お金はそこそこかかりましたが、VISA申請のためにはすごく重要な書類がたくさんあり、それを全て日本語で丁寧に指導していただけるのはとても助かり、その会社自体も本当に良心的で何かあればすぐに連絡してくださり、どんなに小さなことを質問してもすぐに対応していただいたので、結果そこでもお願いして本当に良かったと思っています。

### ③ ATJとして経験した具体的業務

私が実際にしたことは、本当にアシスタント業務で自分で授業を受け持つことは全くありませんでした。

なので、授業中におりがみをしていて出来ていない子を手伝ってあげたり、採点をしたり、日本語を発音したり、授業で使う教材を作ったりコピーをしたりと難しいことは何ひとつなく、どれもこれも楽しかったです。友達の子は自分で授業を持っている子も何人かいたので、本当に学校によって変わってくると思います。

### ④ ATJ以外の活動

土日祝日は、とにかく外出してオーストラリアの友達に会うようにしていました。

とにかく英語を使う環境にいたかったので、ネットでオーストラリア人と日本人が交流できるようなイベントを見つけて色々参加して、現地の友達を作っていました。

あともうひとつ、ATJメンバーでも一番シティーの近くに住んでいたのも、その点いつも週末はシティーに遊びに行き友達に会う事が出来たので、住んでいた場所も恵まれていたと思います。

### ⑤ ホームステイ

ホームステイは合計5回移動しました。

その内2回は学校の先生、残りは学校の生徒の家です。

ひとつの生徒の家は、9か月の期間の間8か月というほぼずっとという感じで滞在させて頂きました。

私の小学校は、改築中でお金に余裕がないため、ホームステイは無償で私を滞在させるという条件だったので、私自身もとても何から何まで気を遣いました。

でも、無償で私を受け入れてくださったのも関わらず、どの家族も本当に優しく素敵で、どこの家もホームステイが嫌と感じたことは全くありませんでした。

どこの家族も本当に素晴らしい家族で、心から大好きですし、これからも連絡をとっていきつくりたいです。

## ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

私はかなり治安の良い、また裕福な人が多いエリアに住んでいたのですが常に安心して行動していましたが、それでも夜遅くまで遊んでトラム（路面電車）で帰ると、トラムストップから家まで徒歩3分という距離でも、夜はほぼ出歩いている人がいなく静かで怖い雰囲気だったので、いつもダッシュで帰っていました。

オーストラリア人の女性の日本語の先生も、夜7時以降は一人で外を絶対に歩かないと言っていたので、現地の人がある程度言うくらいだから、やっぱり夜に女の子が一人で出歩くのは危ないと思います。またエリアによっては治安の悪いところもけっこうあるので、そういうところの学校で働くことが決まったら、暗くなる前に絶対帰った方が良いでしょう。

## ⑦ 長期休暇の過ごし方

他の ATJ メンバーもみんなそうしていましたが、オーストラリア国内旅行に行きました。高校の時にブリスベンにホームステイをしていたので、その家を訪ねたり、家族が2回、私の休暇に合わせて遊びに来たので一緒にケアンズを旅行したり、また ATJ の友達とゴールドコーストへ旅行もしました。

## II. ATJの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

もう先生も、生徒も、学校のスタッフも、ホストファミリーも、町ですれ違う人も、地元の郵便屋さんも・・・私にとって出会う人全員が本当に良い人ばかりで、毎日が本当に充実して楽しかったです。なので、最も楽しかったことや思い出に残っていることは決められないくらいです。強いていえば一日一日の日々です。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

これだけ良いことしか書いてないんですが、最初の1か月はすごく辛くてホームシックでした。というのも、大学時代も英語は勉強していてそれなりに多少は自信があったのに、

全く持って通じない、みんなが何を言っているのかわからない。

ホストファミリーや学校のみんなはすごく優しいし、たくさん接してきてくれるのですが、何を言っているのかわからなくて、なあなあで流している自分に苛立ちとショックがありました。

でも1か月過ぎたころになると、言葉の壁はまだあっても環境に慣れたのもあり、なぜだか毎日が楽しくなり始めたのを覚えています。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学校の子達はみんなとても可愛らしいのですが、物を全然大事に扱わないのと、オーストラリアは掃除業者が放課後に掃除するので、みんな平気で教室を汚すのがけっこうショックでした。これも悲しいことに時間が経つにつれなれますが…。

あと、手を洗う習慣もないので、私は日本から持ってきていたウェットティッシュをけっこう活用していました。

あとは、フードコートやスターバックスでも、みんなお客さんは片付けないのが普通なのも驚いたし、道にも結構食べ物が捨ててあることが多いため、ハトがそれを食べるために、ハトが日本よりかなり大きいのもびっくりしました。ハエも大きかったです。

## Ⅲ. ATJ参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

一番はやっぱりノートパソコンです。

メルボルンに住む日本人のためのサイト「Go 豪メルボルン」や「伝言ネット」で、けっこう色々役に立つ情報が得られましたし、日本にいる家族や友達との連絡、そして同じ ATJ メンバーとの連絡もパソコンがメインだったので、やっぱり一番の必需品だと思います。

後は私の場合上記にも書きましたが、ウェットティッシュやポケットティッシュ。メルボルンは物価が高いですが、アジアのお店も多いので何でもだいたい手に入ります。

あとは、友達作りのために名刺を 100 枚程作って持って行きました。

現地の友達にもけっこう喜ばれたので、持って行って正解だったと思います。

## ② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

私は本当に何から何まで恵まれた環境だったと思います。

でも働く学校や家族、生徒やスタッフ、そして住むエリア…何もかも全部自分で選べないし、時には納得いかないこともあると思います。

私も最初の1か月は辛かったけど、私はどんな時でも常に笑顔を心がけました。そしてポジティブに何でも積極的に行動するようにしました。

結果、この行動も良い方向に行くためには大切だったなあって思います。

辛い時があっても、絶対ずっとは続かないし、このATJの経験は一生の内の本当にかげがえのない素晴らしい経験になると思うので、どんなことがあっても笑顔でポジティブに乗り越えて行って下さい。

## IV. 進路

### ① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

ATJは9か月の任期でしたが、メルボルンにもっといたかったのと、語学学校に通ってみたかったので、ATJの後はシティでシェアハウスに住んで3か月間語学学校に通いました。今は日本に帰国して、就職活動中です。

### ② 将来の夢

将来の夢はまだわかりませんが、ATJの経験を生かせる何かをして行きたいと思います。